

Mobirta Pitch Deck

モビリティの管理を、スマートに。

PROBLEM

課題

企業で使用される社用車のタイヤ



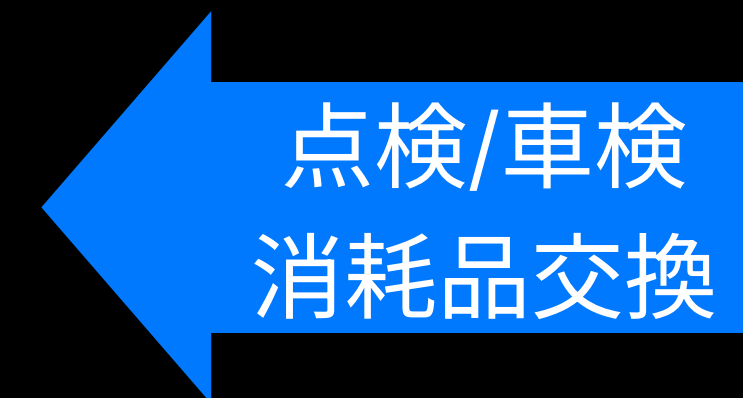
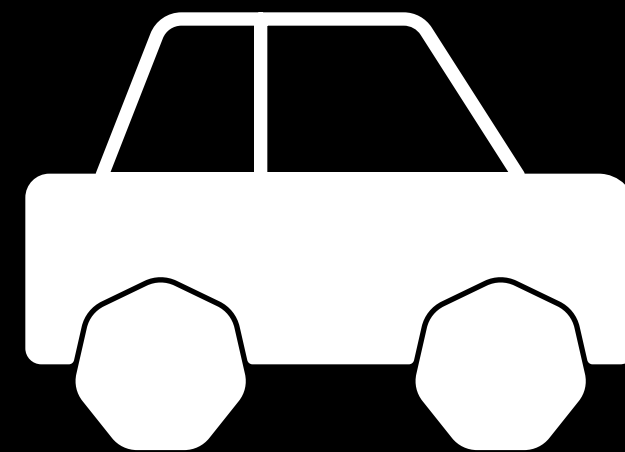
PROBLEM

社用車の使われ方

メンテナンス付リースの利用が増えている。
点検や消耗品の交換はリース会社が行い、日常点検は利用者を実施



利用者



リース会社

PROBLEM

リース社用車のタイヤ管理

- 一般社員が社用車を予約して利用する際、
タイヤの空気圧チェックを行うことは少ない。
70%が点検せず利用（独自アンケート結果）
- 半年ごとの点検時に確認されることが多いが、
それでは間隔が長すぎる



PROBLEM

タイヤ空気圧を管理していないと...

本来、防げるはずの損失が発生



【安全】

パンク故障リスクが3倍になる (米国NHTSA調査結果)

【環境】

タイヤの寿命が20%低下 (ミシュラン Webサイト)
燃費が10%悪化 (JAF Webサイト)

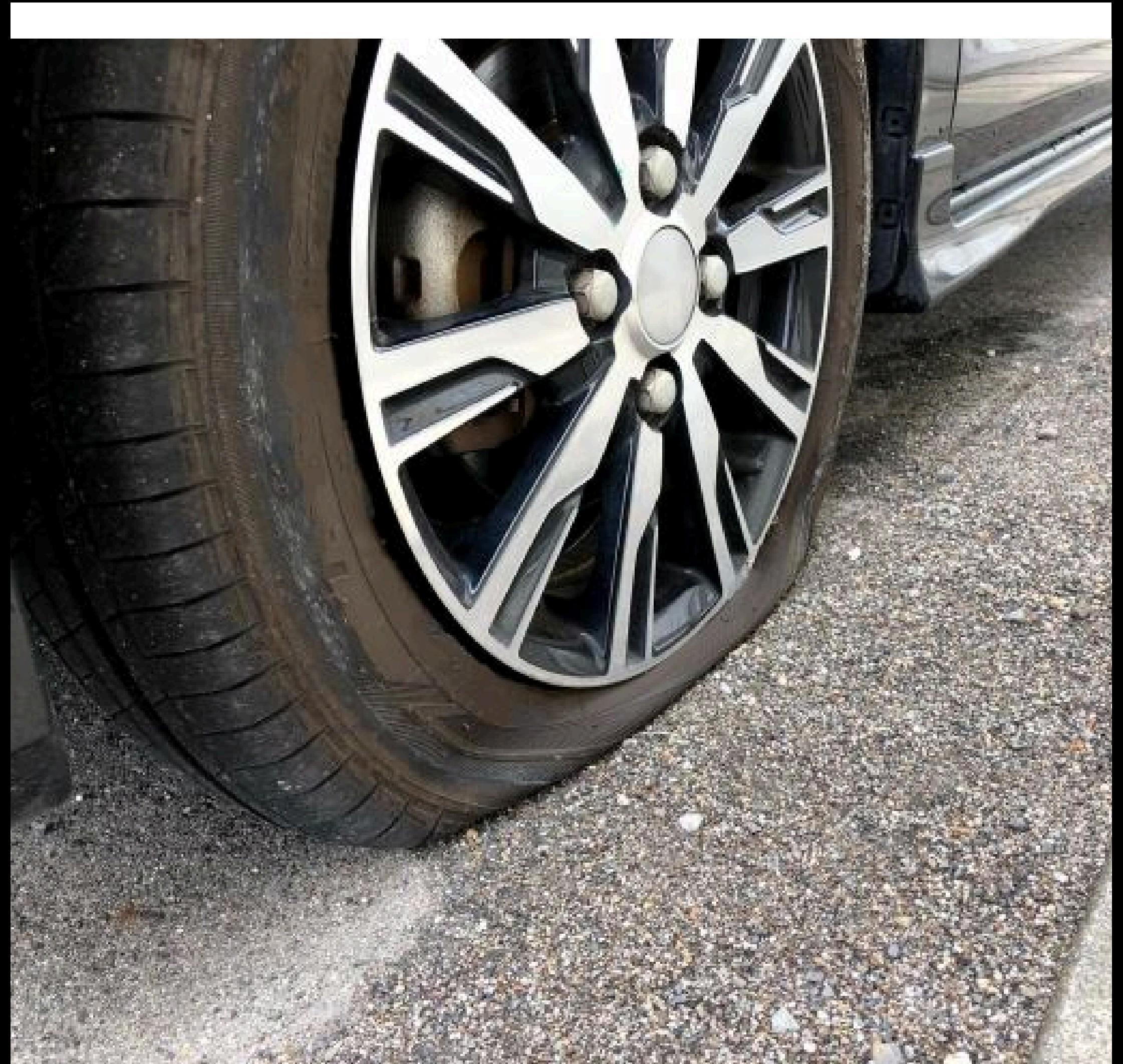
PROBLEM

タイヤ故障の多さ

車両故障原因の第1位はタイヤ破損 (JAF調査結果)

25%のドライバーがパンク経験者
4.1%が直近1年以内にパンクを経験 (JTAMA調査結果)

パンクは、空気圧不足が主要因
一般道58%、高速道路35%の乗用車が
空気圧が不足した状態で走行している (JTAMA調査結果)

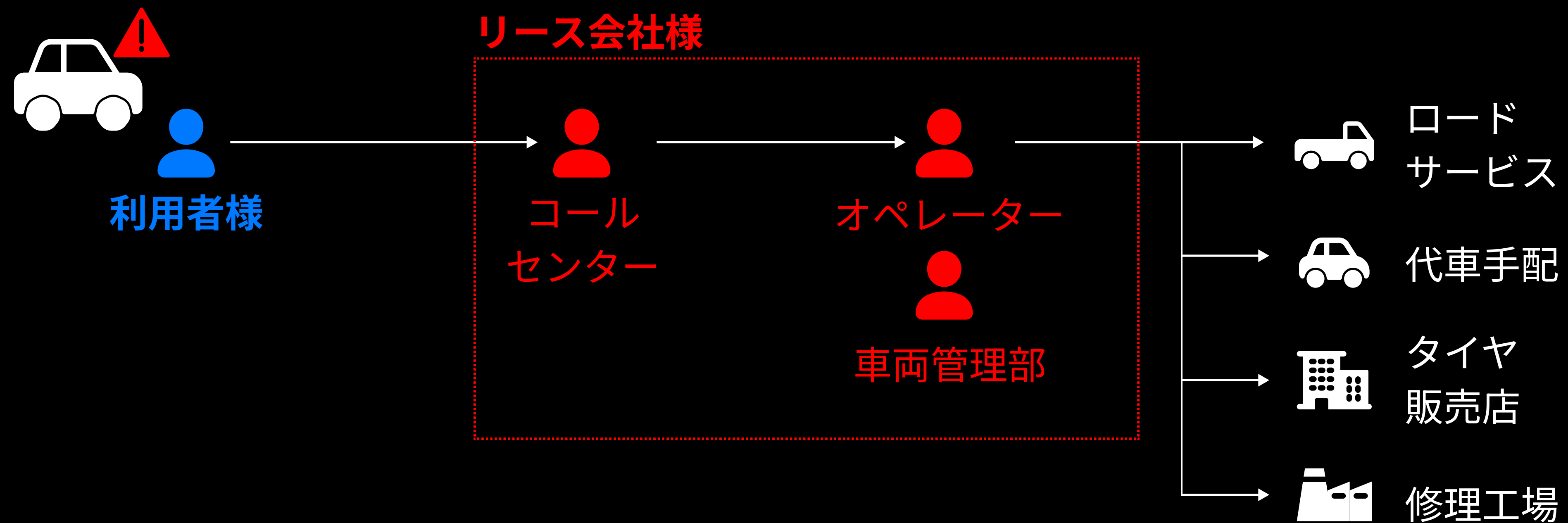


PROBLEM

タイヤ故障が発生すると...

パンクが起きてしまうと、利用者・リース会社共に緊急対応が必要。

リース会社が対応に追われるだけでなく、利用者にとっても機会損失が発生してしまう





なぜやらない・・・？

PROBLEM

ドライバーがタイヤ空気圧管理を行わない理由

(JATMAアンケート結果)

1位：チェックする方法が分からない (47.2%)

2位：面倒 (36.9%)

PROBLEM

ドライバーがタイヤ空気圧管理を行わない理由

クルマへの知識、興味関心がない人は実施したことがないのが実態。
毎回異なる社有車を使用する場合は、空気圧チェックのタイミングが分かりづらい。

1. 空気圧チェック・補充のタイミングを把握する
2. ガソリンスタンドでエアタンクを借りる。
3. 自車のタイヤ指定空気圧をチェックする（ドアの裏に書いてあることが多い）
4. ホイールのバルブキャップを外す
5. ホースをつなぎ、ボタンを操作して指定空気圧まで空気を補充する
6. バルブキャップを閉める
7. エアタンクを返却する



PRODUCT

AIによるタイヤ管理サービス

タイヤの日常管理を、誰でもいつでもできる作業に変える

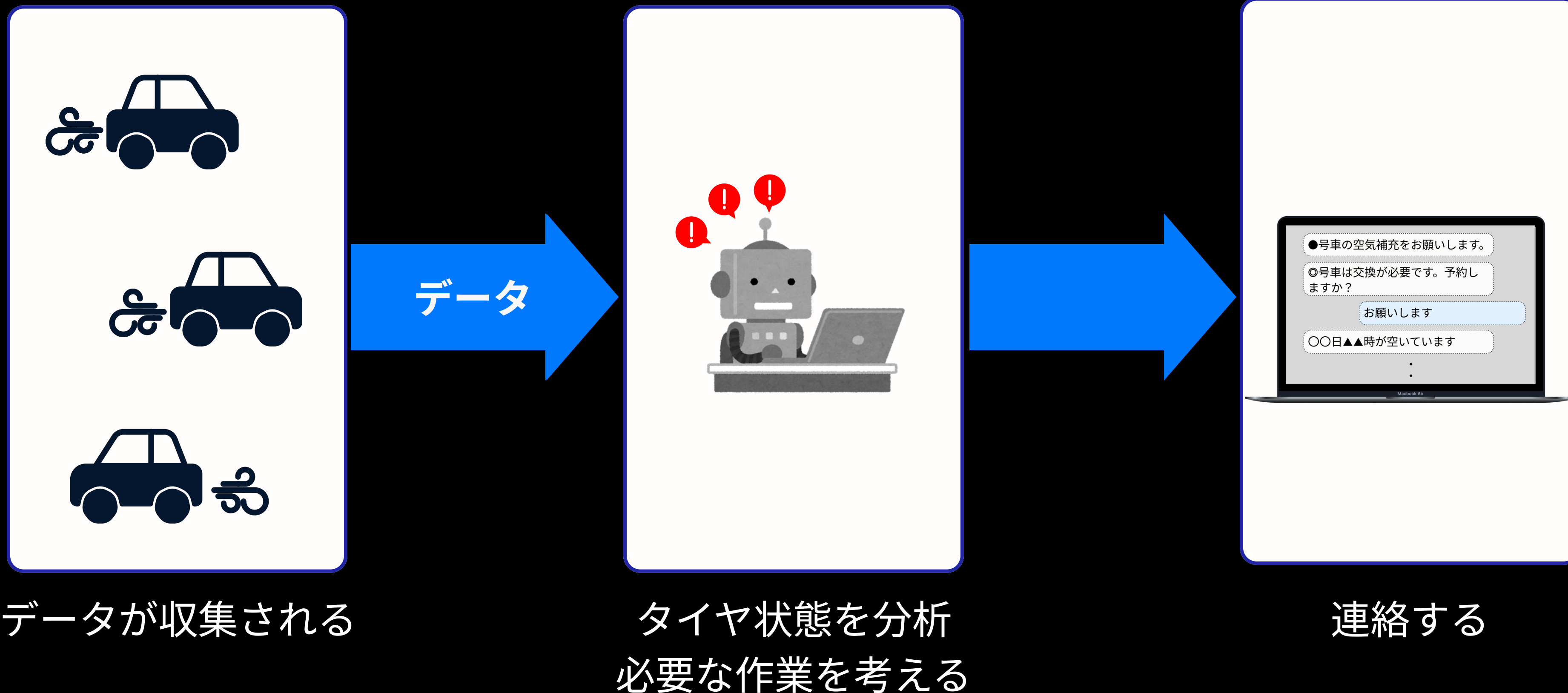
必要なハードウェア：センサ（ホイールのバルブキャップに取付）、USBデバイス、ポンプ



PRODUCT

タイヤ管理AIエージェント

センサとUSBデバイスが、タイヤ状態に関するデータを収集
AIがデータを分析。必要な作業を判断し連絡



PRODUCT

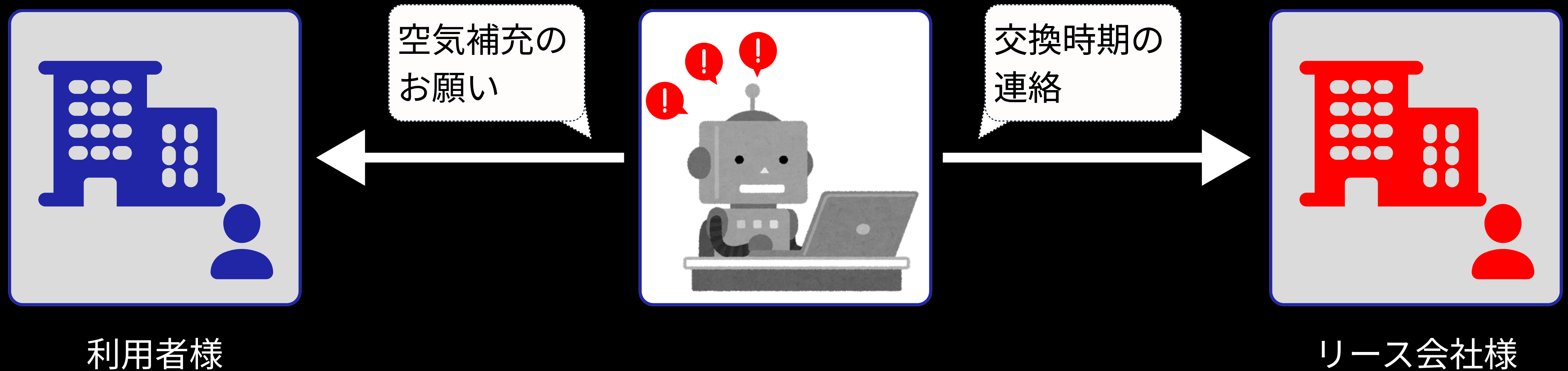
管理作業の簡素化

クルマ毎の指定空気圧に達すると自動停止するようスマートポンプがプログラミングされる
ホースを繋ぎボタン押すだけで指定空気圧まで空気が補充される



導入メリット

最も故障頻度が多いタイヤに関する対応コストがほぼゼロになる（オペレーション省人化）
車両のランニングコストが低下する（タイヤ寿命と燃費の向上）
お客様に対し、故障を未然に防ぐ新たな安全サービスとして提案できる



リース利用者様の導入効果試算（例）

お客様にとってもメリットあり。コスト増にならない。

トヨタ プロボックス（ガソリン車）を5台ご利用の場合...

タイヤ故障：-70%

安心して利用できるようになる

コスト：-150000円/年

タイヤ寿命向上、燃料使用量削減による
コスト削減効果

CO2：-1800kg-CO2/年

タイヤ生産時、燃料使用時に発生するCO2
排出量を削減できる

<計算条件>

年間走行距離：20000km、タイヤ寿命：40000km、ガソリン代：180円/L

FUTURE

将来構想（開発中...）

タイヤの日常管理作業を自動化し、
人の作業をゼロにする。
（空気補充、外観チェック）





Mobirta
